

週刊

## EVANGELION

C H O N I C L E

エヴァンゲリオン・クロニクル

06

定価690円(税込)

2010/3/16

## Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン初号機 B

防護服

## Character Sheet

碓ゲンドウ A

オーバー・ザ・レインボウの  
艦長 副長

## Tactics Sheet

第6使徒ガギエル遭遇戦

## Timeline Sheet

ヤマアラシのジレンマ

## Installation Sheet

人類補完委員会

## Technology Sheet

ロンギヌスの槍

## Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス



特製バインダー  
発売中!



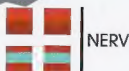
汎用人型決戦兵器  
人造人間 エヴァンゲリオン



初号機



NERV最強の  
使徒殲滅兵器



NERV

EVA-01 TEST TYPE

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン 初号機  
EVANGELION TEST TYPE  
Sheet 01

EVANGELION TEST TYPE  
Mechanic Sheet

## 使徒殲滅の要たるEVA

対使徒用兵器としての名を裏切らない結果を残したEVA初号機。しかしながら、操縦者の碇シンジが危機に陥ったときに発現する“暴走”こそ、初号機の勝利の要因であり、その戦果は必ずしもシンジの實力とEVAの性能によるものばかりではない。

### 使徒との交戦記録

- 第3使徒サキエル  
暴走により殲滅
- 第4使徒シャムシエル  
単独にて殲滅
- 第5使徒ラミエル  
一旦敗北。再戦後に殲滅
- 第6使徒ガギエル  
交戦せず
- 第7使徒イスラフェル  
一旦敗北。再戦後に殲滅
- 第8使徒サンダルフォン  
交戦せず
- 第9使徒マトリエル  
チームプレイにて殲滅
- 第10使徒サハクィエル  
チームプレイにて防衛担当
- 第11使徒イロウル  
交戦せず
- 第12使徒レリエル  
暴走により殲滅
- 第13使徒バルディエル  
ダミーシステムにより殲滅
- 第14使徒ゼルエル  
暴走により殲滅
- 第15使徒アラエル  
交戦せず
- 第16使徒アルミサエル  
参戦のみ
- 第17使徒タブリス  
単独にて殲滅

### DATA

機体・EVA-01 TEST TYPE

## 初号機

搭乗者: 3rd Children

## 碇シンジ

主武装: WEAPON

バレットライフル  
ハンドガン  
プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色: COLOR



# そう、逃げちゃだめだ

(碇シンジ)

背面 BACK



前面 FRONT

側面 SIDE

関連事項 RELATED INFORMATION

- アダム
- 碇シンジ
- 碇ユイ
- 人類補完計画



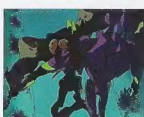
アダムとされる光の巨人。そのシルエットは初号機と酷似している。しかし、両機はリスより造られたとも争われる。

## 初号機の交戦記録

NERV本部が所有するEVAの中で最も多くの戦闘経験を活かす。テストタイプという本来の役目を果たし、実戦での活動データ収集に大きく貢献した。使徒の殲滅数もEVAの中で最多を誇り、9体目の敵を仕留めている。

### 第3使徒サキエル戦

初号機の初陣。シンジは満足に動かせず、光の槍で頭部を貫通して活動停止。その直後に暴走。追い詰められたサキエルは初号機と共に自爆するが、同機は無事に生還する。



サキエルの一方刃を攻撃で左腕部を破壊された。

### 第4使徒シャムシエル戦

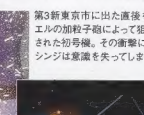
戦場いたトウジとゲンスケをエンリプ・プラグへ奪取した際、ミサトの撤退命令を聞かずにプログ・ナイフで反撃したシンジ。内蔵電撃リギリで使徒を殲滅した。



相打ちに敗れた。辛くも勝利を収めた。

### 第5使徒ラミエル戦

先手を打たれ、戦う間も次々破れる初号機。その後装備を整え、ガシマ作戦が突如される。その際に初号機は、ボジトロンナイバーライフルで敵手を担当。第一射は同時に攻撃されたラミエルの加粒子砲と干渉し合っており、レイの乗機が盾となって加粒子砲を防ぐ間、二対目にてラミエルを撃ち抜く。



第3新東京市に出た直後後、ラミエルの加粒子砲によって狙い撃たれた初号機。その衝撃によって、シンジは意識を失ってしまふ。

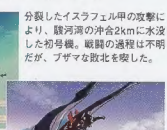
ボジトロンナイバーライフルに日本中の電力を集め、1億8千万KVのエネルギーをもつてラミエルのA.T.フィールドを貫いた。



レイの乗機が盾となり、初号機はボジトロンナイバーライフルでラミエルを撃ち抜いた。

### 第7使徒イスラフェル戦

式号機と初の共同戦線。初戦はバレットライフルで式号機の保護を務めるが、分裂したイスラフェルによって敗北。その後Nゲージを受けた使徒は、再生のため6日間活動停止する。その間にシンジとアスガは音楽に合わせた攻撃パターンをマスター。再戦後、使徒のコアを2回同時過重攻撃を決め、撃破に成功する。



分裂したイスラフェル甲の攻撃により、駿河湾の沖合2kmに水没した初号機。戦闘の過程は不明だが、ブザマを敗北を喫した。

### 第9使徒マトリエル戦

EVA3体のチームプレイにおいて、オフェンスを担当。地上への出口に陣取るマリエルに対して、零号機からバレットライフルを受け取った初号機は、一斉射にて攻撃。



相打ちに敗れた。辛くも勝利を収めた。

### 第10使徒サハキエル戦

自らの身を質量爆弾化して落ちてくるサハキエル。それを受け止めるため、いち早く使徒の落下地点に着いた初号機は、式号機がコアを破壊するまで使徒を支え続ける。



相打ちに敗れた。辛くも勝利を収めた。

### 第12使徒レリエル戦

レリエルを止めようとして先行した結果、使徒が形成するテラウクツの海に囚われる。その中でシンジの生命が尽きようとする刹那に暴走。使徒を内面から裂いて脱出した。



相打ちに敗れた。辛くも勝利を収めた。

### 第13使徒バルディエル戦

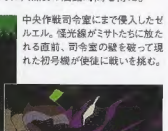
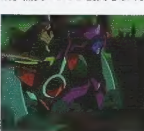
使徒に乗っ取られた3号機に自分と同じ子供が乗っていること知り、攻撃できないシンジ。業を煮やしたゲントウはダミーシステムを起動。圧倒的な力で使徒を殲滅する。



シンジも意識を失ってしまふ。使徒は暴走し、乗っ取られた3号機は暴走する。

### 第14使徒ゼルエル戦

中央作戦司令部に侵入したゼルエルからミサトたちを救い、左腕を失いながらもジョフロントまで使徒を引き戻す。有利に戦う初号機だったが活動限界に達してしまい、動けないままコアを暴動に攻撃される。そのとき、3度目の暴走を引き起こして使徒を蹂躞。捕食によりS機関を取り入れ、無限の活動時間を得た。



中央作戦司令部まで侵入したゼルエル。直前直前でミサトに放たれる直前、司令室の壁を破って現れた初号機が使徒に戦いを挑む。

圧倒的な力で式号機と零号機を倒したゼルエルだが、暴走した初号機には手も足も出さず、敗北するもく破られてしまふ。

### 第16使徒アルミサエル戦

零号機の危機において、凍結を解かれ攻撃する。プログ・ナイフでダメージを与えながら、アルミサエルに浸食されて危機に陥る。結局、零号機の自爆により難を逃れる。



相打ちに敗れた。辛くも勝利を収めた。

### 第17使徒タブリス戦

式号機を操り、ターミナルドグマへ向かうタブリス。その後を追い、足止め役の式号機とプログ・ナイフで交戦。打ち倒し、自ら手中に収まったタブリスを握りつぶす。

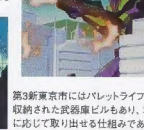


初号機の手の中へ、自ら初号機のコアを握りつぶす。

## 初号機の使用兵器 携行火器①

EVAが使用するスタンダードな火器がバレットライフルである。通常のアサルトライフルとは異なり、弾倉がグリップの後ろに配置されたバブルパップ方式を採用しており、コンパクトで取り回しの利く形状となっている。劣化ウラン弾を電磁銃で撃ち出すが、使徒に対しての効果は十分とは言えない。

使徒を倒すほどの威力は期待できず、主に対人制用として使われている。倒された1体の使徒はマリエルのみ。



第3新東京市にはバレットライフルが収められた武器庫ビルもあり、状況に応じて取り出される仕組みである。

### ↓バレットライフル

別名バレットガン。機関部即ちの字加減速ノレートを持ち、銃身には冷却システムが組み込まれているEVAの主力火器。



## 特記事項

### 碓シンジの慢心

EVAへの造性は高いものの、使徒との戦いを快く思っていないシンジ。"EVA操縦者としての自分"に価値を見出している。そのためシンジの乗りに固執し、トップを見つけたことから増長を招く。その結果、死の危険に瀕することに。

操縦者に成り立ての頃のシンジは、使徒との戦いに恐怖し、涙を流すことすらあった。



シンジの乗ったトップのアスガを倒したシンジ。彼は慢心ではなく、慢心を抱いてしまふ。

シンジの乗ったトップのアスガを倒したシンジ。彼は慢心ではなく、慢心を抱いてしまふ。

キャラクターシート

Character Sheet

碓ゲンドウ

Sheet

06

GENDOH IKARI A



人類存亡の  
鍵を握る



NERV



碓ゲンドウ

GENDOH IKARI

冷徹かつ  
寡黙な男

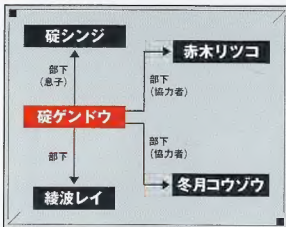
個人情報

名前	碓ゲンドウ
年齢	48歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1967/04/29
血液型	A型
所属	NERV/最高司令官

国連直属の特務機関NERVを統率する最高司令官、碓ゲンドウ。彼の経歴はNERV設立に深く関わっており、その活動の足跡はNERV誕生までの歴史そのものといっても過言ではない。2002年、ゲンドウは人工進化研究所（後のゲヒルン）所長に就任し、E計画に着手する。すでにこの頃、彼の活動の裏には国際的秘密組織ゼーレの存在が見え隠れしていた。次いで2004年にはEVA初号機の接触実験を執行するも、その最中に妻のユイを喪失。直後に行方不明となるものの1週間程度で復原し、アダム計画及び人類補完計画にも着手していくこととなる。さらには第7世代コンピュータMAGIが完成を見た後、ゲヒルンが特務機関NERVへ移行したことに伴い、同機関の最高司令官に就任する。このように、2015年に至るまで、各計画の推進を任されてきたゲンドウだが、各計画に対する見解の相違からか、ゼーレ及び人類補完委員会とは衝突を繰り返しているようだ。

そうして、ついに15年ぶりの使徒襲来を迎えた際、ゲンドウは3年ぶりに息子のシンジと再会する。しかし、そこで彼はシンジに対し、EVAに搭乗して使徒と戦うことを強要。長い間連絡も取らなかった息子に対して「必要だから呼んだ」と言い、「乗らないならば帰れ」とつき放した。絶対的な自信に満ち溢れたゲンドウの、冷酷で無慈悲な物言い——そして慕然さゆえに、彼の真意を推し量ることは難しい。しかし、結果としてシンジはEVAに乗ることを選択。それが、NERV及び第3新東京市を守ることに繋がったのは紛れもない事実である。

人物関連図



関連事項

- 綾波レイ
- 碓シンジ
- 赤木リツコ
- 冬月コウゾウ
- NERV



EVA零号機操縦者にもかかわらず、国籍、生年月日、血液型をはじめとする個人情報が見消されている謎の多い少女。

表情



一瞥い視線で相手を見透すゲンドウ。NERV最高司令官としての威厳に満ち、部下に冷酷な指示を与える。顔に艶をたくわえた風貌からも、威厳な雰囲気を醸わている。



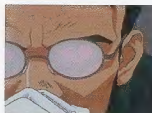
時に、眼鏡によって表情が隠されることも。眼鏡を外さないことには、意図的に表情を隠すという狙いもあるのかもしれない。



←一瞥をくれるその表情は、他人を軽蔑しているかのようにも見える。ほとんどの他人を受け入れる姿を見せない、ゲンドウらしい表情といえる。



←ゲンドウの冷酷さと意志の強さが窺える。優い表情の横顔。他人にはとんと興味を示すことがない彼は、実の息子と5年ぶりに再会した際にも、その疑い表情を隠すことはなかった。



シンジの暴走を止めるため、エントリープラグ内のL.C.I. 運度を上昇するよう指示するゲンドウ。その表情には怒りが見受けられる。

制服



←立ち振るゲンドウは背筋がまっすぐ伸びており、非常に姿勢が良い。彼より大きく見えるその姿勢も、威圧的な雰囲気を生んでいる原因のひとつだろう。



→ジャケットの内側には、ハイネックシャツを着用している。その軽やかな赤がざし色として際立つ。意外と派手な色を好む傾向もあるようだ。

正面



一機縦性を重視した、繊細のたっぷりとしたジャケットと、一般的なスラックス。ゲンドウは、常にこのNERV仕様のスーツに身を包んでいる。

側面

# 碓ゲンドウ

## という存在



↑あまり見ることができない、ジャケットを脱いだ家のゲンドウ。その手には常に白い手袋を装着しているが、これは職務上の義務によるものではなく、手に負った火傷を隠すための装用のようだ。

↑最高司令官という立場のため常に冷静で、あまり感情を表に出さないゲンドウ。だが、時折折れない表情を見せることもある。ただ、大きく表情を動かすことは非常に少ないため、彼の感情を読みとることは困難を極める。

NERV最高司令官を務めると同時に、人類補完計画責任者として計画を遂行するゲンドウ。その全貌を知る者は一握りであり、知り得ない者には猜疑心の芽を植え付けていく計画——、ゲンドウはそういった性質の計画実現を最優先事項とし、それ以外の事務柄について取ることがない。実の息子はEVA初号機の専属操縦者として、自らを慕う赤木親子は協力者として、その他の人間も計画遂行上の持ちこまとして利用する——、冷静沈着にことを進めるその姿が職務に忠実であるが故に、彼には「非情な人物」というイメージが付きまとう。しかし、その行為を俯瞰した時「計画実現のためには形振り構う余裕がない」という彼の、逼迫した状況を鑑みることができる。

ちなみに、ゲンドウが本格的に人類補完計画の遂行に着手したのは、妻であるユイを失った後のことだ。さらに、彼が遂行する計画のシナリオは、ゼーレが用意したものとは異なると言われている。彼の真の目的は、計画の実現により「愛した妻に再び出逢う」とことも推察できるが、その真相は不明である。



「非情な人物」と目されているゲンドウ。微笑することもあるが、それが必ずしも好意の表われとは言い切れない。



操縦選考者たちの到着を傍見て、自らも力仕事に従事するゲンドウ。廊下において、部下たちを牽引する行動力も持ち合わせている。

特務機関NERVの最高司令官であり、数々の機密計画の指揮も執るゲンドウ。その多忙さ故にNERV本部に不在のことも多いが、執務を疎かにすることは決してない。のみならず、NERV本部の電力供給がほぼ停止している状態で使徒が襲来した際は、作業現場で手動によるEVAの起動準備の指揮を執った。また、第10使徒襲来時、ほとんど勝算のない作戦を成功させたシンジに、珍しく労いの言葉をかけてもいる。必要とあれば現場に向出くことも厭わず、任務を果たした部下に対しては激励する——、そういったゲンドウの姿勢は、人類最後の若たるNERVの統率者にふさわしいものといえるだろう。

# NERV最高司令官としての姿勢

# 冷徹な性格の影響



久しぶりに会った息子に、即座に言葉を命じるゲンドウ。息子の状況のため、操務するらしく変わっていない。



操業者が13号機の機軸を拒むシンジ。ゲンドウは躊躇することなく、即座にダメージシステムの起動を命じる。

最高司令官として卓越した統率力を見せる一方、目的のためならば手段を選ばない性質のゲンドウ。瞬時に下される冷徹な判断は、時に周囲を戸惑わせることもある。だが、使徒を倒さなければ人類全体が危機に晒されることを考えれば、その判断は妥当なものである。NERV最高司令官という地位にある彼が迷いを見せることは、人類滅亡に繋がりうるから。故に、常人ならば躊躇しかねない局面でも、彼は決して迷うことはない。息子であろうと自分を慕う人間であろうと、迷わず利用する——その点が彼を冷徹に見せている所以であるが、それらはあくまで必要に迫られたための行為ともいえるだろう。



## 綾波レイ との関係



レイに対し、真の姿を見せるゲンドウ。その表情は明らかに最高司令官のそれとは異なるものだ。



大きく狭まった表情を見せるゲンドウ。対象がレイの場合のみは、このように感情を隠すことができないようだ。



→特徴的な髪や瞳の色を除くと、外見はゲンドウの妻、碓ユイに酷似しているという綾波レイ。母女と称される際、ゲンドウはそこにユイの面影を重ねているのかもしれない。



→EVA零号機の操縦時に負傷することも多い。ただ、本人は怪我を善後する意志が強く、負傷にも怯むことはない。

常に冷静沈着な態度を崩すことのないゲンドウだが、最初のEVA操縦適格者である綾波レイに対しては、特別視をするような特異な態度を見せている。その親密な態度には、実の息子たるシンジが嫉妬にも似た感情を抱いてしまうほどである。零号機の起動実験失敗の際には、その身の危険を顧みることなく、自らの手でレイを救出。第14使徒襲来時、レイが自爆による使徒殲滅を目撃した際も、狼狽した表情で彼女の名を叫んでいる。その一方で、シンジが初号機に乗ることを拒んだ際は重傷のレイに対して出撃を命令し、彼女もそれに従った。一方、レイもまた彼には他人に見せることのない表情を見せることが多く、絶対的な信頼を寄せている様が見える。

なお、レイの個人情報の一部が抹消されており、その正確な出自は不明である。ただし、その外見は亡き碓ユイに酷似しており、生前の知己であった赤木ナオコすら、一見してユイとの関係を疑っていた。また、NERV本部のターミナルドグマにおいては、複数のレイ(クローンと推察されるが、詳細は不明)が目撃されている。さらにレイは、人類補完計画の鍵を握る存在とも目されており、ゲンドウが彼女を特別視するのは当然とも言える。ちなみにゲンドウは、ユイが妊娠していた頃、息子ならばシンジ、娘ならばレイと名づけると口にしてきた。これらの事実を考え合わせると、レイに対するゲンドウの態度は妻、あるいは娘に対するものに近いと考えられる。



3年ぶりに妻の墓参りに訪れた際、シンジと言葉を交わしたゲンドウ。静しく、父親としての一面を窺われた。



もうEVAに乗らぬと言ったシンジに、去望したと告げるゲンドウ。時に、それまでは期待していたとも思われる。

息子のシンジに対し、ゲンドウは酷く冷たい態度を取る。シンジはそんな父に反発しながらもEVAに搭乗するが、そこには多分に「褒められたい」という想いが込められている。しかし、ゲンドウの態度にほとんど変化はなく、自らの気持ちを裏切られ続けるシンジは、エディプスコンプレックス的な愛憎を募らせていく。本来ならばゲンドウが取るべき行動は、亡くなった妻の分まで息子のシンジに愛情をかけ、見守ることであろう。しかし現実には、ゲンドウはシンジを突き放し続けている。不器用ゆえにシンジを傷つけることを恐れる「愛情表現の裏返し」とも考えられるが、その真意は定かではない。

## 碓シンジ との関係

## 赤木リツコ との関係



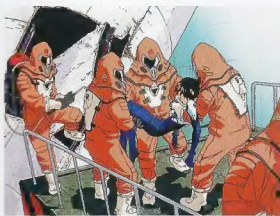
レイのみを特別扱いするゲンドウに嫉妬を面持ちを浮かべるリツコだが、ゲンドウはそれを見逃す様子もない。



敵々利用し慕った女性を相手に、ゲンドウが最終に向けた言葉は、どのようなものだったのだろうか——?

NERV技術開発部に所属し、E計画責任者及びMAGIの管理責任者を務める赤木リツコ。NERVの中核に関わる彼女の職務上、ゲンドウとは共に行動することが多い。ゲンドウは部下として、彼女のことをそれなりに信頼しているように見受けられる。

しかし、それらはあくまで表面上の関係である。ゲンドウはリツコの能力を利用するべく、肉体的な関係を結んでいた。だが、後々になってリツコ自身がその真意に気づき、翻意することとなる。ちなみにゲンドウは、リツコの母であるナオコとも肉体関係を持っていた。リツコはその事実を承知した上でなお、ゲンドウとの関係を結んでいたようだ。



# 防 護 服

## 汚染から身を守る 完全防護服



有害物質から身体を守るための服を総じて防護服という。主に感染性を持つ細菌やウイルス、放射性物質などが存在する場所において着用される。

セカンドインパクトによって引き起こされた世界規模の混乱。海面上昇した影響により、世界の各所で軍事衝突や災害が多発した。おそらく、原発事故やバイオハザードが大小発生し、深刻な汚染も多かったことは想像に難くない。そのため防護服が必要となる状況は劇的に増え、その性能もまた、改良によって飛躍的に向上したものと考えられる。とりわけ、災害救助や紛争解決に動いた国連は重度の汚染地帯に足を踏み入れる機会が多かったものと思われ、より高性能な防護服を欲したと考えられる。

2015年現在に使われている防護服は、セカンドインパクト以降改良が重ねられたもので、まさに時代が防護服の性能を高めたといっても過言ではない。



防護服は其の性能が著しく、人体に害を及ぼす有害物質の侵入を防ぐ。また、放射線や細菌などの侵入を防ぐ。また、放射線や細菌などの侵入を防ぐ。



放射線防護服用のマスクは、汚染物質の侵入を防ぐ。また、放射線や細菌などの侵入を防ぐ。



NERV

# Protective Suit

## 防護服 (NERV仕様)

NERVの用いる化学防護服。気密型で、内蔵された自給式呼吸器により、着用者に呼吸用の空気を送っているものと思われる。そのため高レベルの汚染区域にも踏み込むことが可能。また、不織布を用いた緻密な繊維構造により、有害物質付着による表面汚染や外気による内部汚染を防ぐ。材質は不明だが、化学物質に対して浸透(素材の隙間を非分子レベルで通過すること)や透過(気体状態で内部に通過すること)を許さない高いバリア性を備えた素材が使用されているものと推測される。



→ 1 髪をフードでまとの、密閉ヘルメットを装着。防護手袋は袖の器具で装着するため、ケミカルテープで密着する必要はない。



硬シンジ強制排出



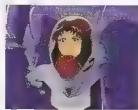
EVA初号機に立てこもった硬シンジは、エントリープラグをこじ開けられて強制に排出された。これはとき作業に当たった人員は防護服を着用している。これは、緻密な生体部品で構成されたEVAを汚染しないための配慮とも考えられる。また、機体回収班にとって便体の体液などは未知のものであり、有害な可能性があるため着用するは当然だが、EVAの部品にも有害物質が含まれている可能性も捨て切れない。

## 放射能防護服

放射性物質から身を守るための防護服。高レベル汚染用の完全気密型で、身体にフィットした機動性の高いデザインである。一体成形の防護服に、フェイスカバー & バイザーをジョイントして着用。背面にはコンパクトにまとめられた自給式呼吸器を持つ。また、耐熱性にも優れ、放射線防護のための遮蔽体を組み込んだ素材を用いているものと考えられる。



J.A.完成放射能記念会の行なわれたトロープ方には、放射能防護服が用意されていた。スーツを脱ぎ捨てたミサトは、肌露の上から使用する。



初号機の手からJ.A.に乗り移ったミサト。アクロバティックな動きを阻害しない作り。防護服である。

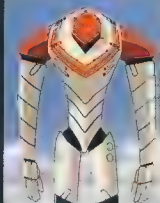
かなりの高温となっていたJ.A.内部。その熱に耐え、人力で制御棒を押し戻そうとするミサト。



## 特記事項

## J.A.暴走事故

日本核化学工業共同体の産物と称する巨大人型生体兵器J.A.。その完成披露記念会において仕組まれた事故は起こる。暴動演とすりアタマ(獅子舞)の内圧が突如上昇。J.A.は制御不能となってしまう。炉心の制御棒を止めようとするミサトは、初号機の手を借りてJ.A.内部へと乗り込む。しかし、停止させるためのアクセスロードは何等かの原因で変質されていた。あわや炉心融解という寸前、プログラムの異常により危険は去る。用意された奇跡を見たミサトは、それが自らの所属する組織の驕慢だと悟るのだった。



- 機体回収班
- 硬シンジ強制排出
- J.A.停止作戦
- NERV



EVAの爆壊事項に関することが多く機体回収班。場合によってはホールドアップも同じし、直線指示を出さなければならない。

# 時代の変化に取り残された 太平洋艦隊

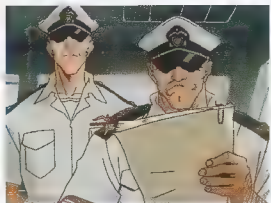
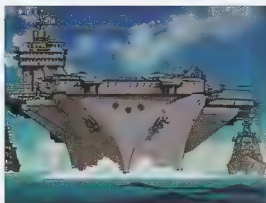
を指揮、統率する海の男



## オーバー・ザ・ レインボウ艦長 副長

CAPTAIN AND COMMANDER OF 'OVER THE RAINBOW'

世界各方面に割り振られた国連軍の兵力のうち、太平洋を管轄する大艦隊「国連軍太平洋艦隊」を統率するのが、旗艦である航空母艦オーバー・ザ・レインボウを駆る艦長、副長の2名である。使徒の脅威の前に通常兵力が形骸化した中で、太平洋艦隊といえどもその例外たり得なかった。しかし、第8使徒の襲来という危機的状況下において、彼らはEVA式母機との共同作戦を展開。迫り来る使徒を見事に殲滅することで、海の男の誇りを見せた。



キャラクターシート

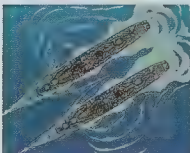
## Character Sheet

オーバー・ザ・レインボウ艦長 副長

CAPTAIN AND COMMANDER OF OVER THE RAINBOW

太平洋艦隊に与えられた任務は、ドイツのヴァルヘルムスハーフェン港から新横須賀港までのEVA式機輪送及び護衛であった。大艦隊を率いていたオーバー・ザ・レインボウ艦長及び副長にとって、この任務は重宝したいものであり、特に艦長は長年に渡り培ってきた「海の男」としての矜持をひどく傷つけられたものと推察される。その怒りの矛先は、万一に備えEVAの非常用電源ソケットを空輸してきた葛城ミサトに向けられることとなった。

とはいえ、使徒の脅威とそれに対抗しうるEVAの有用性を認めれば、その態度を軟化させ、最終的にはミサトの立案した作戦への協力も惜しまなかった。そこには、第3使徒を迎え撃った第2方面軍の幹部たちは異なる、常に現場に身を置いてきた男たちの柔軟性と、実質的な勝利への執念があった。



「生き残った戦艦2隻を自沈させて使徒の口腹内に送り込み、電流砲撃後、さらに自衛を敢行する」といつ、ミサトの強引な作戦を了承した艦長たち。その凄ましい決断が作戦を成功に導いたといっても過言ではない。

## 追加報告

## 太平洋艦隊の編成について

太平洋上をその管轄下とする国連太平洋艦隊は、米国、ロシア、日本といった国連加盟国保有の艦艇によって編成された、連成大艦隊である。

旗艦である米国のオーバー・ザ・レインボウ(ニミッツ級航空母艦)、「コナチッド・ステイツ」(旧改名)を筆頭に、ニミッツ級航空母艦2隻、旧ソ連のアドミラル・クラスネボゾフ級、キエフ級航空母艦(正式には黒海航空母艦)1隻ずつ、さらに米国のアイオワ級戦艦2隻、詳細不明戦艦2隻と多くの巡洋艦、駆逐艦、潜水艦、フリゲート艦等が同行しており、米海軍情報ながら、EVA式機輪送及び護衛には少なくとも30隻以上の艦隊が同行していた可能性が高い。

しかし、記録によれば第6使徒との戦闘において国連海軍は全艦隊の9分1を失ったとされており、使徒を撃滅したとはいえ、その被害状況は甚大なものだった。以降、右方面で海上戦力の再構成が行われたのはもちろん、たとえれば海上戦力自体の有用性に對しても一考されたものと推察される。



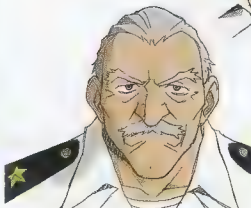
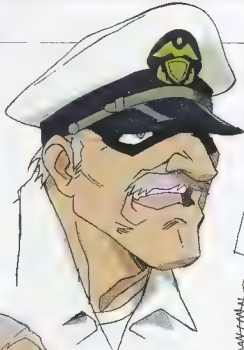
相田ケンタは空母海軍、第4の大艦隊と敵艦の艦を上げながら、当該艦以外の艦も存在した。実際には未曾有の大艦隊だったと推察される。

- EVA式号機
- 国連
- NERV



相立及び試験がドイツで行われていたEVAのロケット・モジュール専属操縦者は数度、アカカップル。

## 艦長、副長



↓老練の軍人らしく厳しい表情が多く、隠れが鋭い艦長。その先入観は年齢を感じさせるものの、あのミサトに首斬を仕掛けるなど、まだ本気だといった感がある。



↑太平洋艦隊の実質的な指揮を執っていた、社年から老年といった風貌。新参者である同国連の特務機関NERVに準拠的なところもあるが、有事にはごたわりを捨て、最善の策を提案する柔軟性も持ち合わせていた。



↑艦長とは異なり、帽子を脱ぐとこの顔開きが大きく変わる副長。しかし、艦長と同様にNERVに対して不満を持っているらしく、ミサトに対する愛動も感じられることが多い。

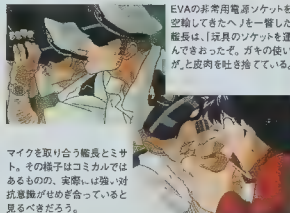
←艦長の情に立つ副長。その職務のためか、感情の激しい艦長と対照的な印象で、その表情も繊みとろつ。

## 特記事項

## 国連軍とNERVの関係

国連軍と特務機関NERVは、共に国連の下部組織である。ただし、表面上は協力関係にあるものの、その組織間の関係は必ずしも良好ではない。セカンドインパクト以降の混沌とした世界を支えてきたという自負があるためか、国連軍の人々は、超法規的な新生組織NERVの存在を快く思っていない場合が多い。

太平洋艦隊という大艦隊を率いる艦長、副長もその例にもれず、その言葉の強さや権威的、あるいは侮蔑的な感情が見え隠れすることが多い。彼らの場合、使徒襲来時にはミサトの作戦、協力する状況に沿った対応を見せたが、そういったケースは非常に稀であったと思われる。



マイクを取り合う艦長とミサト。その様子にはミサトはあるものの、深層には、対話艦隊の旨が伝わっていないと見られるだろう。

EVAの非常用電源ソケットを空輸してきたヘリを一撃した艦長は、「採具のソケットを運んで来た。ミサトは、ガキの癪いが、と皮肉を吐きつけている。

タイムラインシート

Timeline Sheet

ヤマアラシのジレンマ

Sheet

06

EDGEHOG'S DILEMMA

A.D.2015

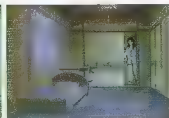
01

ミサト、シンジの家に気づく

シンジの部屋はもぬけの殻になっていた。ある雨の朝、目覚ましに起こされたミサトは浮かぬ顔で洗面台へと向かった。先日から四層を出めたシンジの様子に気がかかっていたのだ。二度目の挨拶との取置のあと、シンジは部屋へ引きこもったまま、もう5日も学校をさぼり続けている。悩んだ末にミサトはフスマ越しに声をかけてみるが、部屋の中は静まり返っている。しびれを切らした彼女がフスマを開けてみると、そこには空っぽの部屋があるだけだった。



「あいつ……まだほんたうに帰るつもりか……」シンジの配するミサトは、驚しい顔で部屋の様子を確かめていた。



ミサトが気づいた時には、IDカードと書き置きの手紙だけを投げてシンジはどこかへ姿を消してしまっていた。「家とか……ムリもないわね」ミサトはどこかかっていったような面持ちで小さくつぶやく。

A.D.2015

●第3新東京市～大浦谷

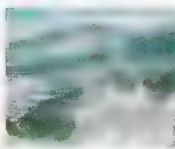
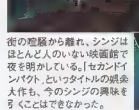
04

シンジ、映画館で一夜を明かす

桃源台の駅で降りたシンジはオールナイトの映画館で夜を過ごしたあと、再び町をうろつはじめた。人気がない第3新東京市の道を偶然と歩いていくシンジ、人だが、ふいにその足が止まった。やがたく響くセミの声と共に、黒團のビル群が自身へ向けて迫ってくるように思えたのだ。恐怖に駆られたシンジは、第3新東京市から逃げようとするのかのようにやくもにも走り出す。行先を確認しないままにバスに乗りこんだ彼は、いつしか緑が広がる田園地帯にたどりついていた。



白昼夢の世界に陥りかけたシンジは、立ち立ってあれももう一歩を離れるが、行く先があるはずもない。



緑の田園地帯の小島は、遠くまでつらつらと、眼下には第3新東京市の街並みが広がっていた。

街の窓から漏れる、シンジはほとんど人のいない映画館で夜を明かしている。「セカンドインパクト」というタイトルの映画大作も、今のシンジの興味をそくここはできなかつた。

2015年

ミサト、シンジの家に気づく

ミサト、シンジの行方を気にする

シンジの不在を告げられるトウジとケンスケ、シンジの様子を見るため、ミサトの部屋を訪問

新世紀年表

REBUILD OF EVANGELION  
TIMELINEヤマアラシのジレンマ  
EDGEHOG'S DILEMMA

「あいつ……まだほんたうに帰るつもりか……」シンジの配するミサトは、驚しい顔で部屋の様子を確かめていた。

桃源台の駅で降りたシンジはオールナイトの映画館で夜を過ごしたあと、再び町をうろつはじめた。人気がない第3新東京市の道を偶然と歩いていくシンジ、人だが、ふいにその足が止まった。やがたく響くセミの声と共に、黒團のビル群が自身へ向けて迫ってくるように思えたのだ。恐怖に駆られたシンジは、第3新東京市から逃げようとするのかのようにやくもにも走り出す。行先を確認しないままにバスに乗りこんだ彼は、いつしか緑が広がる田園地帯にたどりついていた。

街の窓から漏れる、シンジはほとんど人のいない映画館で夜を明かしている。「セカンドインパクト」というタイトルの映画大作も、今のシンジの興味をそくここはできなかつた。

## ●第3新東京市

03

## シンジ、市内をさまよう

ミサトのマンションを飛び出したものの、行くあてのないシンジは街を巡る環状線に乗っていた。目の前を車たちが次々と美陸していくなか、ひとりぼんやりとうつむいたまま電車の座席に座るシンジ。やがて夜となり、電車が回送になるまで彼はそこに座り続けていた。



シンジは第7環状線で街をウログルと回っていた。



電車を降りざるを得なくなったシンジは「帰らなくちゃ」とボンッとつぶやく。

02

## トウジとケンスケ、ミサトの部屋を訪問する

親友たちはシンジのことを気にかけていた

突然のインターフォン音にシンジが帰ってきたかと思わすミサトだったが、そこにいたのはシンジのクラスメイト、美原トウジと相原ケンスケだった。彼らはずっと学校を休んでいる

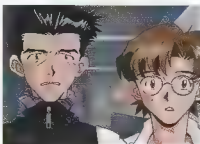


友達の外はトウジとケンスケ

トウジたちを安心させようとするミサトは素直なことを伏せ、シンジはNERVの訓練施設にいると答える。



トウジとケンスケはシンジの部屋を訪問し、その理由を聞いてみる。シンジは「学校を休んでる」と答える。



NERVの訓練施設に居ると答えるシンジは、トウジとケンスケの心配をよそに、NERVの訓練施設にいると答える。

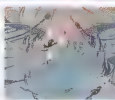
## ●NERV本部

A.D.2015

05

## ミサト、リツコに相談する

NERVに出動したミサトは、シンジが家を出たことをリツコに告げる。14歳の少年に人間の存亡をゆだねるのは酷なことだが、自分たちはそうせざるを得ない。リツコは冷静にそう述べる。一方のミサトは、シンジが戻るつもりがないのなら、その方がいいのかもしれないと考えはじめていた。



ツイの検査をきつつ、シンジのことを話すふたり。

ミサトはシンジの気持ちをうまく伝えることができます。ひとり思い悩んでいた。



04

## ミサト、シンジとの口論を回想する

不明瞭なシンジの態度にミサトはいらつく

リツコと話しながら、ミサトはシンジとの会話を思い浮かべていた。先日の使徒との戦闘のあと、ミサトは彼になぜ命を無視したのか訊ねたのだが、シンジはなにを言っても無気力にならず



シンジは命無視の言葉をミサトに聞かされた。

シンジの態度に怒ったミサトは、いいかげんな気持ちでEVAに乗っていたら死ぬことになるかと話め断る。



自分以外に誰も命を奪うまいと思えない。シンジの態度が、ミサトの胸を刺す。



シンジは「マサに命を奪うまい」といふ必要はない。シンジの態度が、ミサトの胸を刺す。

ミサト、  
シンジとの口論を回想する

ミサト、  
リツコに相談する

その足で大涌谷に向かう

シンジ、  
映画館で一夜を明かす

シンジ、  
第3新東京市内をさまよう

A.D.2015

●大浦谷

## 07 シンジ、ケンスケと遭遇

シンジはケンスケに親しみを覚える  
夕暮れの山中をあてなく歩いていたシンジは、突然、何者かに声をかけられた。近くの野原でケンスケが戦争ごっこをしていたのだ。シンジをテントへ招いたケンスケは、トウジが敵ったことを反省しているとしンジに伝える。元気のないシンジを気にかけてか、気さくにあれこれ語りかけるケンスケ。それはシンジにとって、思いがけないやすらぎの時間となった。

→夏学期試験と称して  
軍服を脱ぎ回っていた  
ケンスケは迷彩服に  
身を包んでいた。



夏学期の戦争ごっこを  
していたケンスケは、何  
のでもないようなシンジを  
平和に誘う。



ケンスケが話した内容は彼もた  
だ自分勝手には聞き取れな  
かった。シンジにはまだ戦争ごっこ  
の面白さや楽しさがあるの  
だ。でも、あんなにやさしい人  
は初めて知った。自分の中の無  
邪な心は、少しづつはたいてい  
ていく。

A.D.2015

## 17 シンジ、トウジを殴る

別れ際、少年たちは和解した

シンジを殴ったことを後悔していたトウジは、自分も殴ってくれと言い出した。しりごみするシンジだったが、トウジの意志の固さに、その顔に拳を叩きつける。わだかまりを解き、笑い合う少年たち。トウジは、もしも術を離れるシンジを悪く言う者がいたら、殴ってやるよとまで言ってくれた。街から逃げ出す自分にかける温かい言葉に、シンジはしばしば果敢となる。

→とにかくシンジに謝罪が  
たいという裏切ったトウジ  
を殴りやめた。



手加減なしで殴れという  
トウジに、シンジは思い  
切り拳を振った。



シンジの謝罪を知ってトウジは  
あんなにやさしい人を知りな  
かった。トウジは口には言  
えなかったが、シンジの拳は  
自分の中の無邪な心は、少し  
づつはたいてい

2015年

シンジ、  
大浦谷でケンスケと遭遇  
ケンスケのテントで  
一夜を過ごす

NERV保安課報部、  
シンジの所在を確認

シンジ、  
NERV保安課報部に  
拘束される

シンジ、ミサトと面会

互いの感情が  
すれ違ったまま  
口論となる

計画の変更を示唆  
ゲンドウ、

初号機のデータを書き換えるよう  
指示する

## 08 シンジ、保安課報部に拘束される

翌朝、テントへ近づくとケンスケが外へ出てみると、NERVの保安課報部員が四方を囲んでいた。彼らはシンジをNERV本部へ運送するためにやってくるのだ。抵抗もせず、おとなしく男たちについていくシンジを、ケンスケは成す術もなく見送るしかなかった。



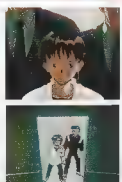
姿を隠わした軍服の男によってシンジは運送された。



あとから一連の話を聞いたトウジは、それを黙って見てたのが一番辛かった。

## 17 シンジ、トウジたちにあやまる

課報部員に連れられて駅への階段を登る途中で、シンジはふいに身を翻した。「僕にはなきやらないの僕だ!」僕は軍服で、隠れて……するく、弱虫……」涙声のシンジを男たちが強引に引いて行く。トウジとケンスケは、言葉もなく、ただそのうしろ姿を見守っていた。



駅舎の階段が近づき、シンジはホームへ向かう。



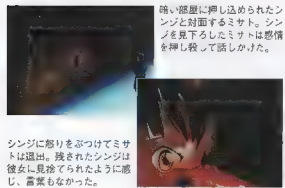
自分の後悔さき気づいたシンジは、トウジたちへ叫びたいにはいらなかった。



A.D.2015

09 シンジ、ミサトと面会する

拘束されたシンジの下へミサトがやって来た。無断で失脚したことは替めずに今後もEVAに乗るつもりはあるのかとだけ、静かに問いかけるミサト。だがやはり自分自身の意思を述べようとするシンジに、ミサトは激情を抑えきれずに叫ぶ。「人のことなんか関係ないでしよう! 嫌ならここから出て行きなさい!」音を立ててドアが閉まり、室内にはシンジだけが取り残された。

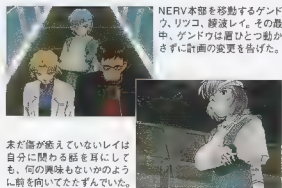


シンジに怒りをぶつけてミサトは退出。残されたシンジは彼女に見送られたように感じ、言葉もなかった。

NERV本部

10 ゲンドウの計画変更を示唆

シンジが第3新東京市を離れることになったと知ったゲンドウは、初号機のデータを被流レイに書き換えるようリツコに指示した。その言葉に、背後にいるレイの様子をちらりと窺うリツコ。「マルドゥック機関の報告によるフォーステルドロンはまだ見つからない」その言葉を続けるゲンドウに、「パイロットの補充はきかないということですか?」と、リツコはどこか意味ありげに答えた。



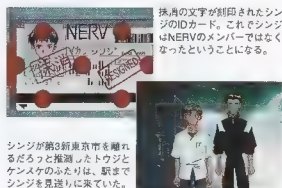
未だ癒えていないレイは自分に問われる顔を見ても、何の意味も立いかのように向を向っていた。

NERV本部を移動するゲンドウ、リツコ、被流レイ。その最中、ゲンドウは再びつ動かざるに計画の変更を告げた。

A.D.2015

11 シンジ、NERVより登壇申請

EVAのパイロットではなくなったシンジは、NERVから籍を抹消された。迎えに来た諜報員の一人に最後の挨拶をしたいとミサトの居場所を訪ねるシンジ。だが、もう君はNERVの人間ではないとわづらわづらわられてしまう。そのまま諜報員に駅へと連れて行かれるシンジだったが、駅には意外な人が待っていた。トウジとケンスケが、勸をきかせて駅に駆けつけてくれたのだ。



シンジが第3新東京市を離れるだろうと推測したトウジとケンスケのおまじり。駅までシンジを見送りに来たのだ。

抹消の文字が封印されたシンジのIDカード。これではシンジはNERVのメンバーではなくなったということになる。

14 ミサト、新箱根湯本駅に向かう

NERV本部では、リツコがミサトにこれ以上かかったら聞いかけた。ふと以前にリツコから言われた言葉を思い出すミサト。身を寄せせるほど相手を傷つけるヤマアラシのジレンマ——シンジもまた、互いを傷つけるような言い方で、自分の気持ちを伝えられなかったのだ。そう思い至ったミサトは急いで駅へ向かうが……。



シンジが街を出る時間が刻一刻と近づく。ミサトは離れ、躊躇つきで考えこんでいた。

「ああいう言い方でしか自分の気持ちを伝えられないんだわ。もっとミサトはシンジの側に近づいた。」

15 シンジ、ミサトと和解する

シンジは自らの意志でEVAに乗り続けることを選ぶ。シンジが乗る電車が駅に着いた。だが開かれたドアの前で、シンジはミサトが優しく彼を諭してくれたことを思い出していた。一瞬、ミサトは車を飛ばして駅に駆けつけるが、彼女が着いた時にはすでに電車は駅を離れていた。間に合わなかったのかとため息をつくミサト。だが、すぐにホームにシンジが立っていることに気づいた。彼は結局、電車に乗らなかったのだ。「た……ただいま! ためらだ!」がちな笑顔で、そんな言葉を告げるシンジに、ミサトもまた笑顔で「おかえりなさい」と答えたのだった。



このまま立ち立っていいのかわからない。ホームへ降りこんでみる電車の前で、シンジは迷った。

トウジたちの前に急停車する1台の車。降り立ったミサトは、シンジは意外な気持ちで思っていた。電車は流れるが……。



言葉の響く目撃の下で、シンジは「た……ただいま! ためらだ!」と叫ぶ。ミサトは、シンジの言葉に涙を流す。

た……ただいま! ためらだ! と叫ぶ。シンジの言葉に涙を流す。

- シンジ、  
NEEVより登壇を  
抹消される
- ▶
- シンジ、  
新箱根湯本駅に  
移送される
- ▶
- シンジ、  
トウジとケンスケに再会
- ▶
- シンジ、  
トウジを殴る
- ▶
- シンジ、  
トウジとケンスケに  
あやまる
- ▶
- シンジ、  
ミサト、  
新箱根湯本駅に向かう
- ▶
- シンジ、ミサトと和解

タクティクスシート

actics Sheet

第6使徒ガギエル遭遇戦

Sheet

09

HE SIXTH ANGEL GAGHIEL ENCOUNTER BATTLE

Illustration by Tak.Ysk.io



第3新東京市を遙く離れた海上での襲撃。水中という特殊環境に特化した第6使徒は、国連軍の進歩兵装はあろうが、エヴァンゲリオンさえも闘争しん。

## 初めの海上での戦闘と、使徒の目標

使徒の形態、思考の多様性と

エヴァンゲリオンの問題を明らかにした偶発戦闘

TACTICS SHEET

ドイツからEVA式号機を移送中の船団に対する第6使徒——後にガギエルと呼称される——による襲撃と、それ以降の防衛、迎撃戦は、これまでの対使徒戦と比較して、様々な点で異質な戦闘であった。

つまり、この戦闘は「使徒側の奇襲」という状況だけではなく、第3新東京市とは無縁の場所での戦闘が行なわれた最初の例だったのである。これにより、使徒が単に「第3新東京市」という地理上の目標を自動的に目指しているのではないことが推測される。使徒、もしくは使徒の上位指揮システムが、ある程度の範囲をカバーする索敵能力を備え、その情報を元に観測対象物の中からHUV(高価値目標)を選ぶ能力を備えている事が考えられる。第5使徒との戦闘でも明らかになったように、EVAは第3新東京市というバックアップの下にあって初めてその真価を発揮できる。しかし、今回の使徒の行動模式から、使

徒は必ずしも第3新東京市の制圧圏内に現れるのではない、という事実が明らかになったのである。

同時に第6使徒との戦闘は、特殊環境下におけるEVA単体戦闘の問題点を露わにした。その問題点とは、EVAは汎用兵器であるが故に、特殊な環境下ではオプションの装備が必要であり、それがない場合はほぼ無力であるということである。実際、第6使徒戦に投入されたEVA式号機は、「水中」という特殊環境において、運動性や機動力だけではなく、攻撃力すら喪失(B型装備の標準兵装であるプログレッズ・ナイフは「斬る」為の兵装であり、攻撃時の反作用を受け止める「足場」がないとその威力は大幅に減じる)するという、非常事態に陥った。

この状況に対し、同行していた葛城一尉の機転と現場での判断により、NERVに指揮権が移譲された。そして、直接攻撃能力しか持たない使徒の特性を利用し、辛うじて勝利を収めることに成功したが(使徒が遠距離攻撃能力を持ち、ヒットアンドアウェイ戦法を採っていた場合、一方的な「虐殺」になっ

たであろう)、今後に大きな課題を残すこととなった。

また、使徒の目標がEVA式号機であるという前提に立つと、使徒は「EVA=HUV」と評価したと考えられる。これ以外にも、汎用戦闘兵器であるEVAが、第3新東京市という強力なバックアップ下で、戦力として整備される前に撃破しようという、高度な思考の下に行動した、ということも考えられる。

実際に、この戦闘で基本装備であるB型装備で迎撃を行なったEVA式号機は、かなりの苦戦を強いられ、以降の対使徒戦に重大な戦績を残すこととなった。また、第6使徒の目標はEVAではなかったという情報もあるが、これについての真偽は明らかではない。

## RELATED MATTERS

第6使徒ガギエル  
エヴァンゲリオン式号機  
艦首:アスカラングー  
国連軍



EVA式号機を移送中の船団を襲った使徒は、水中での活動に特化した形態を持つ。



# インストールシート Installation Sheet

人類補完委員会

Sheet

07

THE HUMAN INSTRUMENTALITY COMMITTEE

Illustration by Takuya O



人類補完委員会と特務機関NERVの会合の場は、互いの意見交換の場であり、報告の場でもある。通常はNERV最高司令官のゲンドウと副司令官の冬月コウジが召集され、5名の委員会メンバーと質疑応答を行なう。

## 人類補完委員会

組織の発足とその概要

時に西暦2004年。箱根にあるゲヒルン地下第2実験場において、ある実験が開始された。E計画に基づいて創造された汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン——その初号機の起動実験である。ゲヒルンの研究者たちが見守る中で起動実験が開始され、その開発に携わった生物学者、碓ユイが自ら初号機に搭乗した。しかし彼女は、突如として制御不能に陥った初号機に取り込まれてしまう。妻を亡くした失意のため、同じくE計画を推進していた碓ゲンドウは、しばらくの間、行方をくらませる。その間の葛藤は本人のみが知るところだが、やがて帰還した彼は、ある計画の構想に着手——、その計画こそが「人類補完計画」である。

この人類補完計画に着目し、計画の遂行を決断した秘密結社ゼーレはその強大な社会影響力を用い、当時すでに世界の中心的存在となっていた国連内に、人類補完計画実行の指導、監督を主たる任務とする秘密委員会「人類補完委員会」を発足させる。さらに委員会には、第7世代スーパーコンピュータ

MAGIの完成と同時に、ゲンドウが所長を務めるゲヒルンを解体。同じく国連の特務機関であるNERVを設立し、その最高司令官にゲンドウを据える。

人類補完委員会はNERVとの繋がりを色濃くし、表向きにはその予算承認権や、EVAの起動要請権を持つ組織へと変貌する。しかし、その活動の主眼はあくまで人類補完計画の遂行であることに変わりはない。実行部隊であるNERVを得た人類補完委員会は、国連ではなく、実質的な上位組織であるゼーレの指示の下、人類補完計画成就のために邁進していくこととなる。

なお、委員会の言葉借りれば、人類補完計画は使徒殲滅よりも重要であり、人類唯一の希望とされている。その内容の詳細は明らかにされておらず、発案者であるゲンドウ（及び彼を補佐する冬月）、人類補完計画に着目したゼーレのメンバーのみがその全容を知る者と目される。しかし、その最終的な解釈の段階で、ゲンドウらとゼーレのメンバーに相違が発生。ゲンドウらとゼーレ（表向きには人類補完委員会）は、結果的に袂を分かつこととなった。



人類補完計画  
キール・ロレンツ  
関連

NERV  
人類補完計画  
第7世代スーパーコンピュータ

NERV最高司令官、碓ゲンドウが遂行する計画のひとつ「人類唯一の希望」とも言われているが、詳細は謎に包まれている。

## 人類補完計画進行下における 委員会の存在意義

アダムと呼ばれる第1使徒の復元、再生を目的とする「アダム計画」、EVAの創造を目的とする「E計画」などと並び、NERV（主にゲンドウ、冬月）によって進められている一大計画「人類補完計画」。その詳細な内容は不明だが、一説には「人類を完璧な存在にするための計画」とも言われている。

人類補完委員会は「裏死海文書」の記述に基づき、その計画遂行の指導、監督役を担っていたとされている。ただし、委員会自体には人類補完計画を遂行する能力はなかった。また、そのシナリオの詳細についても、常にゲンドウに対して進行状況の確認を行っていたキール（ゼーレ）においても、主要メンバーのひとりだったものと目されている。そのため、計画が最終段階に近づいていくと、ゲンドウと人類補完委員会（及びゼーレ）との意識の相違が深まっていく結果となっている。



一般的には活動内容の詳細が不明瞭なため、同一視されやすい人類補完委員会とゼーレ。大元はゼーレであり、その組織力は冬月に「ゼーレ」業界出身（面談だ）と書かれるほど強大だ。

## 特記事項

### 人類補完委員会とNERV

NERVの上部組織として活動状況などを監視する一方「人類補完計画」を推進するという側面も持つ人類補完委員会。実際に計画を遂行するNERVとは主従関係にあると見られがちだが「尋問に耐え代役を立てる」など、NERVにもある程度の権力は認められている。

ちなみにゲンドウについては、時折、上部組織及び組織から持ち合わせていない様子を見せる。それ故に組織間の対立時間同様の殺意と共に大きくなっていく。

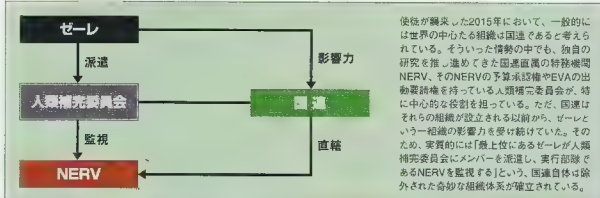
委員会の家系上層に対して「切り札的なものは、すでに存在している。誰かは何れも彼らと重なりあうことがない。委員会は誰か一人のみのためだ。」

人類補完委員会は必要に応じてNERVの人間に専門を要求できるが、代役が認められる場合もある。第12使徒破壊後、ゲンドウの目的を達成するために、ゲンドウが代役を務めている。

## 人類補完委員会の 組織概要

セカンドインパクト後の世界において、人類再興の手段となった国連。しかし、2015年に使徒が襲来したことにより、各関連組織の発言力に大きな変化が生じる。特に汎用人型兵器部隊と、敵と人間エヴァンゲリオンを保有し、使徒に対抗する唯一の戦力となっている「NERV」、その監視役となる「人類補完委員会」共に大きな発言力を得ている。これらの発言力を背景に人類補完委員会が「人類補完計画」を進めさせるが、実際にそのシナリオを実行するのはNERVであり、その内容を知るものも少数に限られている。

### ● 対外組織との関係



### ● 人類補完委員会の構成

国連の一組織であり、人類補完計画に関する意思決定機構である人類補完委員会。その議長及び委員は国連が独自に選出している訳ではなく、実質的にはゼーレのメンバーによって構成されている。メンバーは独、米、英、露、仏の代表者5名。議長は独人のキール・ローレンツが務めている。

#### ■ 独国代表（議長）



本プログラムを使ったバーチャル会議が、意見交換及び報告の場となっている。上座には必ず議長のキールが座る。それ以外の委員は、その発言位置は固定となっているようだ。

余会場の場において、白色の光でライトアップされた席に着いている委員。ゆがみは英人という特徴。ゲンドウの傍し方は他の委員と大きく異なり、人類補完計画により深く関わっている様子が窺える。

#### ■ 米国代表



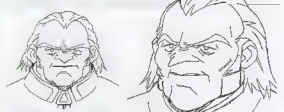
キールの左隣、青色の光でライトアップされた席に着いている委員。豊かな口髭が特徴的。口髭そのものは落ちてきているが、受け持っている言葉は相手の非を的確に突く。

#### ■ 英国代表



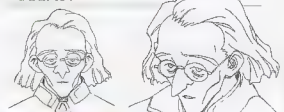
ゲンドウの右隣、赤色の光でライトアップされた席に着いている委員。ゆがみは英人という特徴。ゲンドウの傍し方は他の委員と大きく異なり、人類補完計画により深く関わっている様子が窺える。

#### ■ 露国代表



ゲンドウの左隣、青色の光でライトアップされた席に着いている委員。いかつい眉骨から憂鬱的な性格を推察できるが、その発言は非難に始終することが多い。

#### ■ 仏国代表



キールの右隣、黄色の光でライトアップされた席に着いている委員。学者のような風貌と紳士的な容姿を兼ね備えている。また、ゲンドウの傍し方は他の委員と大きく異なり、人類補完計画により深く関わっている様子が窺える。

## ロンギヌスの槍

LANCE OF LONGINUS

人類とは異なる知的生命体によって創造されたその遺物が、「ロンギヌスの槍」と名付けられた理由は定かではない。人の手に余るサイズや人知を超えた能力など、その遺物の力は計り知れないものがある。そのような物体に、奇跡をもたらすと共に槍を失うと滅びを迎えるという逸話を持つ「運命の聖槍」と同じ名を与えるとは皮肉としか言いようがない。

出自がはっきりしないという意味では、伝承上のロンギヌスの槍も同様である。磔刑に処せられたイエスの血を帯びたことから所有者に無限の力をもたらすといわれるこの槍は、約五千年前に歴史上にその姿を現わした。神から鉱物を授けられた鍛冶屋のトバル・カインによって作られたというこの槍は、以来、エフド、シャムガイ、キデオン、エフタ、サウル、ダビデ、ソロモンといった英雄に受け継がれ、アレクサンドロスによって封印された。それをローマ帝国が発見し、ガイウス・カシウスが十字架上のイエスにその切先を突き立てたのである。つまり伝説が正しいとするならば、神が与えた鉱物で作られた槍が最終的に神の代弁者の命を絶ったことになり、このことからロンギヌスの槍には神を断罪するだけの力があると謳われるようになった。新たに発見された「ロンギヌスの槍」も、現用兵器では覆滅不可能な使徒を一撃で屠るほどの力を有し、秘められた力という共通要素が同じ名前をもたらしたとも考えられよう。

しかし、ふたつのロンギヌスの槍には決定的な違いがある。それは槍自体の能力ではなく、槍の力をふるう行使者についてである。槍を使ってイエスの絶命を確認したガイウスは己の所業を悔い、のちに列聖者のひとりに数えられるまでになった(さらに槍の力は光を失っていたガイウスの目を癒したとも言われる)。このように本来の槍は、行使者に福音をもたらすものだった。槍が聖遺物として敬意を集めるのは、まさしくそのためである。ならば新たに人類にもたらされた「ロンギヌスの槍」は行使者たる人類にどのような福音をもたらすというのだろうか。すべての使徒を覆滅し、人類の繁栄を約束するというのがこの槍の福音と考える向きもある。だが槍の力を正しく使う行使者としての資格が、我々にあると考えてよいのだろうか。そして資格がないとするなら、槍はどのような仕打ちを人類に対して成すというのであろうか……。

## 関連事項 RELATED MATTERS

- 第15使徒アラエル戦
- ロンギヌスの槍の回収
- 人類補完計画
- エヴァンゲリオン
- エヴァンゲリオンの装備



衛星軌道上に出現したアラエルにEVAの遠征兵器は通用せず、ロンギヌスの槍の投擲によって覆滅に成功した。





## 旧東京

新型爆弾によって壊滅した東京。2000年9月20日に投下され、50万人の人命が失われたと、碇シンジたちの使う教科書に記述されている。なお、日本の臨時政府は高層化した東京の復興を断念。首都機能は長野県松本市に遷り、第2新東京市が築かれる運びとなった。



### 第28放置区域(旧東京都心)

都心の大半が水没している旧東京。一部は埋め立て地として再開発され、試験場などに利用されているようだ。

## 旧東京再開発臨海部国立第3試験場

J.A.の披露実演会が催された試験場。埋め立て地として活用されている旧東京都心の第28放置区域にある。J.A.の運用試験が行えるほどの広い敷地を持つ。また、トーチカ内にはJ.A.の運用、実験のための制御室が急造されているほか、披露実演会の際にはパーティー会場が設けられた。試験場としての規模は大きく、フレキシブルな運用を可能とした施設である。



ドーム状のトーチカがあり、車両用の入り口のほか、ヘリなど航空機用の広い駐機場が充実した試験場である。

## 教師

第3新東京市立第壹中学校の教師。数学を担当しており、授業中にセカンドインパクトの思い出を語る癖を持つ。彼が当時住んでいたという樺府川(神奈川県小田原市)は、2015年現在、水中に沈んでいる。



生徒の大騒ぎにも気が付かないほど、セカンドインパクト当時の思い出に没頭する老教師。何度も繰り返して語るほど劇的な事件だったのであろう。

## 教授

京都大学の教授。碇ユイの書いた生物工学の論文を面白いと評価し、彼女に冬月コウゾウを紹介した人物である。学生とは頻りに鴨川へ飲みに行っているようだ。



京都大学当時の冬月を飲みに行き、彼に対して「優秀だが人のつき合いを軽く見ている」と酒の高でたしなめている。

## 共生

異なる生物種間での相互依存関係。第拾参話において第11使徒イロウがMAGIをハッキングした際、自滅促進プログラムを送り込んだ場合の結果として、イロウが死の効率的な回避を考へ、MAGIとの共生を遥か可能性を赤木リツコは示した。



EVA初号機に取り込まれた碇シンジ。第貳拾話において、彼の内部世界でも「共生」の文字が見られる。

## 強制サルベージ

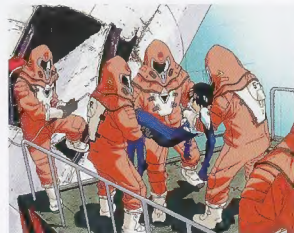
第12使徒レリエルを形成する“ディラックの海”から、EVA初号機を救出する作戦。現存する992個のM2地雷をレリエルの中心部に投下。そのタイミングに合わせ、零号機と式号機のA.T.フィールドで使徒の虚数回路に1/1000秒間だけ干渉。その瞬間に爆発エネルギーを集中させて使徒を形成する“ディラックの海”ごと破壊する。初号機救出のために可能と思われる唯一の方法だが、操縦者の生死は問わず、機体の回収を最優先に据えた作戦であった。なお、暴走した初号機が自力で脱出するため、作戦は実行に移されることなく終わった。



サルベージ対象は初号機の機体であり、碇シンジの生死は問わないと語る赤木リツコ。そのことに激昂した葛城ミサトは、思わず彼女の頬を打つ。

## 強制排出

第拾九話において、EVA初号機に立てこもった碇シンジの排除。碇ゲンドウの采配によって、結果的に友人を傷つけることとなったシンジは、父に抗議するためエントリープラグをロック、発令所からの射出信号を受け付けない状態で初号機内に立てこもる。しかし、L.C.L.の圧縮濃度を限界まで上げられて失神、同機から強制排出された。



レーザーカッターでエントリープラグの非常ハッチを切断し、失神したシンジを運び出した。

## 京都

第拾伍話において、マルドゥック機関を探る加持リョウジが訪れた日本の古都。ダミー企業であるシノノン・バイオという外資系ケミカル会社の登記があり、加持はそこで日本政府の課税員らしき人物と遭遇。本部の内外偵査の行動に対し警告を受けている。また、第貳拾参話において、冬月コウゾウ、碇ユイ、六分儀ゲンドウたち3人が出会った地であることが語られた。



1999年当時、冬月は京都大学形而上生物学の教授をしており、ユイは大学の研究生であった。

## 京都府警察署

六分儀ゲンドウと冬月コウゾウが初めて対面した場所。「降ってケンカ」したという六分儀ゲンドウが留置されていた。

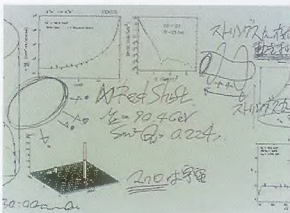


噂を聞いていただけで面識はない人物、ゲンドウからの指名を受けた冬月が、身元引受人として訪れた警察署。



## 虚数空間

無の空間に量子と反量子が現れては衝突して湧き出し空間。第拾六話においては、別宇宙につながるフォームホールとつけた意味で使われている。第12使徒レリエルがA.T.フィールドを用いて形成した“ディラックの海”と呼ばれる虚数空間で、そこにEVA初号機は囚われてしまう。



直径600mm厚さ3mm(ナノメートル)の影こそレリエルの本体であり、その内部の虚数空間は別の宇宙につながっているのではと、赤木リツコはNERVスタッフに断言した。

## 巨大人型自走兵器

J.A.(ジェットアローン)のこと。J.A.を参照。

## キヨミ

葛城ミサトの友人の名前。彼女の結婚式に、ミサトはピンクのスーツを着て出席した。ミサトと赤木リツコの会話に登場することから、ふたりの共通の友人だと思われる。第拾伍話において、他にもモコトという既婚者の友人がいると語られている。

## 霧島マナ

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鐵のガールフレンド」のオリジナルキャラクター。碇シンジのクラスに転校してきた明るい少女。セカンドインパクトで生き残った自分に意味を見出そうとして、何もできない自分を悔しがる。そのため、EVAで使徒と戦えるシンジを羨ましく感じていた。転校早々、積極的なアプローチでシンジに迫るマナ。実は転校前自衛隊の少年兵であり、EVAの情報を探るスパイだった。兵学校に入った当初は、新しい乗り物を動かせると思っていた彼女であったが、軍の最新兵器ライデンの操縦は苦戦であり、訓練して間もなく内憂を痛めてしまう。そして、仲間のムサン、ケイタと共に兵学校の厳しい日々を過ごすうちに、人を殺せばその家族が慰むと誓っていたマナは、パイロットから情報探へと転換。ライデンの完成度を高めるためにEVAの技術を得ようと、初号機の操縦者シンジの常を監視するために送り込まれた。最初は作員員としてシンジに接近したマナだったが、やがて彼に惹かれていく。  
登場作品「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鐵のガールフレンド」

## 緊急処置室

NERV本部内中央病院にあるER(Emergency Room)。部屋内にはICUカプセルがあり、救急患者の集中治療が可能となっている。



第六話において、第5使徒ラミエルの加粒子を胸部に浴びたEVA初号機。そのとき機体とのシンクロによるフィードバックで意識を失ったシンジが運び込まれた。

## 緊急マニュアル

緊急時の対処法が書かれたカード。マニュアルはプラスチック製のカード内に封じられており、使用時は真ん中から二つ折りにして開け、中の紙(マニュアル)を取り出す仕組みとなっている。第拾伍話において、停電のためNERV本部と連絡がつかなくなった際、綾波レイが参照。本部へ続くルートのDとOR-07を示す。なお、碇シンジは緊急マニュアルの存在を全く知らなかった。もしくは彼がNERVスタッフに関する重要事項を覚えていない可能性がある。



カードの中には、緊急時のケース別に対処法が記述された、紙製のマニュアルが入っている。

## キングス弁

正式名称はキングストン弁。エンジンなどの冷却用として艦底から海水を取り入れるバルブを主に指す。小艇や映画では艦艇の自沈用の弁として定義している俗物だが、実際の艦艇に自沈用の弁は存在しない。



第八話において、第6使徒ガザエルを殲滅するために2隻の駆龍がキングス弁を抜いて自沈。EVA試号機がこじ開けた使徒口内へ突入して駆龍射撃を自主放棄した。

## 近接戦闘

使徒との戦闘において最も有効(ダメージを与えられる)とされる戦い方。A.T.フィールドを中和しての近接攻撃によって器底のコアを破壊する。碇シンジは、コアを狙った攻撃によって第4使徒シャムシエルを殲滅し、近接戦闘の有効性を実証している。しかしながら、EVAのA.T.フィールドも使徒によって中和されてしまうため、自身も直接ダメージを被る危険を伴う。また、接触によりEVAを浸食するタイプの使徒相手にはリスクが大きい戦術といえよう。



A.T.フィールドを中和した上で、直接本体へ攻撃を届かせることが対使徒戦闘のセオリー。いかに有効な近接攻撃であるともA.T.フィールドを中和せず、武器の威力だけで突破するのは困難。

## 金髪

赤木リツコの髪色。彼女の金髪は自毛ではなく自ら染めたもの。そのため眉毛は黒。第2東京大学に入学するタイミングで金髪に染め始めた様子で、以降その髪の色が続いている。リツコが金髪にした理由は不明だが、何らかの心境の変化があったのかもしれない。



高校生のリツコは趣味と容姿の女性であった。ゲルハインメンバーと撮った写真に、当時の姿が見られる。

## グーテンモルゲン

「Guten Morgen」ドイツ語で「おはよう」の意味。第九話において、登校中の惣流・アスカ・ラングレーが碇シンジに挨拶した。



アスカの挨拶に「ぐーんもるげん」としてどるもどるに返したシンジだが、「辛臭い!」と一蹴されたデコピンをくらう。